

研究課題 (テーマ)	母乳組成に新生児の性別が与える影響		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科母性看護学	准教授	小林絵里子
分担者	工学部生物工学科	助教	西川 美宇
	University of Turku	Postdoctoral researcher	Laura Galante
研究結果の概要			
<p>母乳組成の変化から分泌の成立を確認することは、従来は行われていなかったが、母乳の組成に関連するこれまでの研究では、母乳育児を主としている母親で、一般的に産後 5 日以内に乳汁ナトリウムの変化が起こることが示されている。</p> <p>そこで、母親による母乳分泌の確立を容易に確認できるような分析方法を探すことを目的として実験を行った。</p> <p>生後 8 日から 194 日の乳児を持つ日本人の母親から提供された母乳 (9 検体) について、ナトリウム濃度を分析した。</p> <p>結果 9 検体の平均ナトリウム濃度は 244.4mg/L (範囲 100~720) であった。</p> <p>(なお本研究結果は 2023 年 6 月に開催予定の第 11 回看護理工学会学術集会にて発表予定である。)</p>			
今後の展開			
<p>今回使用したナトリウム濃度計は、特別な技術を必要とせず、ごく少量の母乳で使用でき、分析結果もすぐに確認できる。分析が容易に行えるようになれば、個々の母親が産後早期から乳汁分泌の傾向に合わせた支援を受けられるようになる可能性がある。今後は同様に母乳分泌とともに変化すると言われている乳糖やクエン酸などの簡易分析を含めて検体を増やして測定し、ベッドサイドでの実用化に向けたデータ蓄積を継続していく予定である。</p>			